

## 市民健康

### 男性トイレのサンタリーボックス設置の推進

**問** 前立腺がん、膀胱がんの術後の症状や排尿障害でおむつや尿漏れパッド等を使用する方が安心して外出できるよう公共施設の男性トイレへのサンタリーボックスの設置を進めていく考えはないか。

**答** 本市では、本年7月から稲佐山公園、9月からもりまちハートセンターで男性トイレにサンタリーボックスが設置されており、一部の地域センターでも既に設置されている。また、新市庁舎でも男性トイレの各個室に設置する方向で検討を進めている。

健康寿命の延伸や高齢化に伴い、設置の必要性は高まっていくと考えており、この取組が公共施設や民間施設へも広がっていくよう、普及啓発に努めていきたい。



▲もりまちハートセンターの設置状況

## 令和長崎

### 地域振興

#### 外海地区の振興

**問** 人口減少や高齢化が進む中、どのようなビジョンを描き、地域振興に取り組んでいくのか。

**答** 外海地区では、第五次総合計画に基づき、地域の魅力を市民が共有し、来訪者も共感できるまちづくり等に取り組んでおり、これまで世界文化遺産関連施設の整備など、地域資源の魅力を高めるための基盤整備を行ってきた。また、地域おこし協力隊員による空き家を活用した移住支援や移住者を中心としたイベントの立ち上げなど、これから期待される地域活性化の動きが始まっており、地域センターなどに配置しているまちづくり担当職員がこれらの動きについて側面から支援を行っている。

今後、まちづくり担当職員を中心に、地域の実情を把握し、関係部局と連携しながら、さらなる地域振興、活性化に努めていきたい。



## 日本共産党

### 本市と「統一協会」との関わり

**問** 過去に「統一協会」やその関連団体が主催するイベントに対して名義後援等を行ったことがあるのか。また、今後の対応はどうするのか。

**答** 旧統一教会については、靈感商法など社会的に問題が指摘されている団体と承知している。これまで関連団体主催の2件のイベントに対し、令和元年度から令和3年度の期間で、計5回の後援名義の使用承認と一部で所管部局の職員の出席があったことを確認している。いずれも当時は関連団体との認識はなく、所管部局において申請書類等から政治的・宗教的活動が行われる内容ではなく、かつ、本市の振興に資する取組であると判断した上で、行ったものであるが、当該団体及びその関連団体と関わりを持つことは市民の疑惑や不信を招く恐れがあることから、今後は使用承認等を行わないよう、より慎重に対応していく。

## 憲政会

### D X 推進

#### デジタル社会への対応

**問** デジタル社会の進展により、今後どのような長崎のまちの姿を目指していくのか。

**答** デジタル社会の進展は、まちの個性や強みを向上させるチャンスと考慮しており、令和3年度には、デジタル化を強力に推し進めるため、組織体制を整備するとともに、まちづくりの指針となる「長崎市DX推進計画」を策定した。同計画に基づき、デジタル技術を活用することで、市民は、地域課題の解決や自分らしい暮らしを実現でき、訪れる人は、多様なつながりや新たな体験・価値を実感でき、

市役所は、一人ひとりに合った利用しやすい行政サービスを提供するなど、デジタルの良い面とアナログの良い面をバランスよく取り入れた、住む人も訪れる人も、もっと快適で楽しめるまちへ変化できるよう取り組んでいく。

